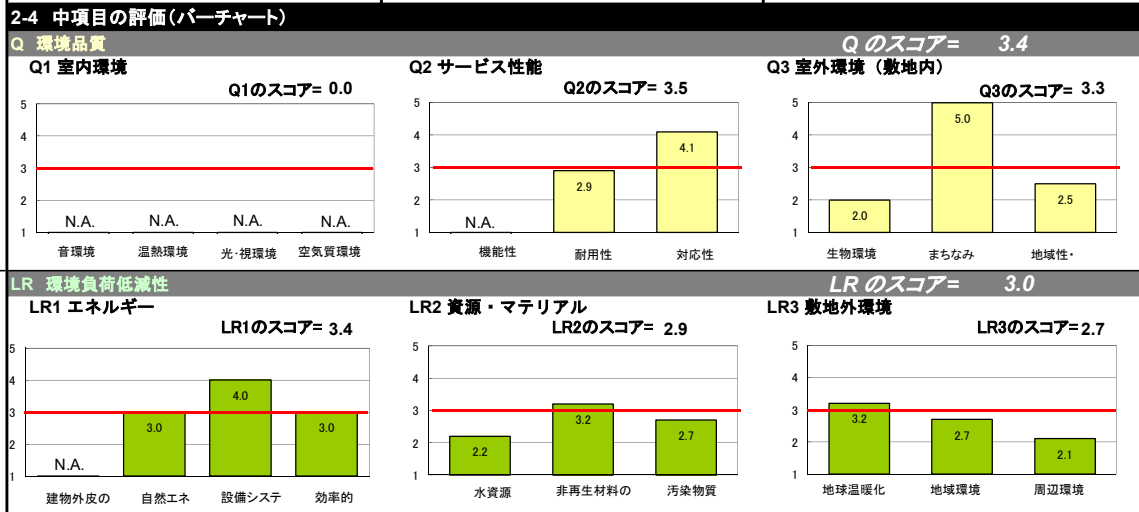
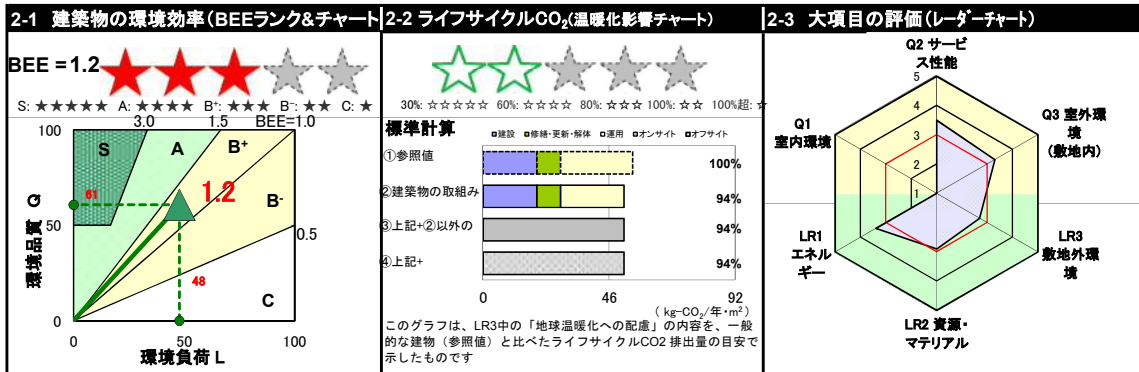


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)スタンレー電気株式会社 岡	階数	地上3F
建設地	愛知県岡崎市牧平町字岩田3-33ほか	構造	S造
用途地域	用途地域指定無し、防火地域指定無し	平均居住人員	55 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,900 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2016年8月20日
敷地面積	26,168.50m <sup>2</sup>	作成者	小林慶太郎
建築面積	10,189 m <sup>2</sup>	確認日	2016年9月1日
延床面積	10,596 m <sup>2</sup>	確認者	平畑征一



### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.2</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>33.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	33.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	33.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出  
 ④地域材の活用  
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$  × 100  
 建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$  × 100

みんなの環境活動を応援しています  
  
 モリデン ちんぽ 000000



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>										
1 生物環境の保全と創出	独自③	2.0	0.30	-	-	-	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	5.0	0.40	視認性の高い北面への設備配管を極力さげた						5.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	2.5	0.30							2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50							
		3.0	0.50							
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										
<b>LR1 エネルギー</b>										
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI <sub>m</sub> =								3.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.28							3.0
3 設備システムの高効率化		4.0	0.43							4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)		4.0	1.00	生産エリアは大空間なので無理に空調せず非空調とした						
集合住宅の評価(3c)		3.0	0.29							3.0
4 効率的運用		3.0	1.00							
集合住宅以外の評価		4.0	0.50	電力、空調、コンプレッサーなど主要機器の使用状況を見える化						
4.1 モニタリング		2.0	0.50							
4.2 運用管理体制										
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
<b>LR2 資源・マテリアル</b>										
<b>1 水資源保護</b>										
1.1 節水		2.2	0.15							2.2
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		1.0	0.40							
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.60							
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.67							
		3.0	0.33							
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>										
2.1 材料使用量の削減		3.2	0.63							3.2
2.2 既存建築躯体等の継続使用		2.0	0.07	既存棟と増築部分と有効に接続し一体的に使えるよう計画した						
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	5.0	0.25							
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.21							
2.5 持続可能な森林から産出された木材		1.0	0.21							
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	-	-	内装、建築設備、生産設備の区分を明確にし改修や更新に配慮						
4.0		4.0	0.25							
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>										
3.1 有害物質を含まない材料の使用		2.7	0.22							2.7
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.32							
1 消火剤		2.6	0.68							
2 発泡剤(断熱材等)		4.0	0.33	生産設備の塗装ブースにはCO2消火を予定している						
3 冷媒		2.0	0.33							
		2.0	0.33							
<b>LR3 敷地外環境</b>										
<b>1 地球温暖化への配慮</b>										
1 地球温暖化への配慮	①	3.2	0.33	ライフサイクルCO2概算値:94%						3.2
<b>2 地域環境への配慮</b>										
2.1 大気汚染防止		2.7	0.33							2.7
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.25							
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.0	0.50							
1 雨水排水負荷低減	独自	4.0	0.25							
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25							
3 交通負荷抑制	独自	4.0	0.25	既存の3次処理設備を使用し、法令以上の基準で排出している						
4 廃棄物処理負荷抑制		5.0	0.25	従業員数に合わせた駐車場/駐輪場が隣接、搬入出車待機場も						
		4.0	0.25	建物内に数十種類の有価物と廃材を分離保管するリサイクル庫						
<b>3 周辺環境への配慮</b>										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		2.1	0.33							2.1
1 騒音	独自	3.0	0.40							
2 振動	独自	3.0	0.33							
3 悪臭		3.0	0.33							
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		1.6	0.40							
1 風害の抑制		1.0	0.70							
2 砂塵の抑制										
3 日照障害の抑制		3.0	0.30							
3.3 光害の抑制		1.6	0.20							
1 屋外照明及び屋内照明のつち外に漏れる光への対策		1.0	0.70							
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30							

# 重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)スタンレー電気株式会社 岡崎製作所 再構築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.2</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.1	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:33.6%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

## ■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>既存棟での生産を続けながら増築と改修を行い、大型の設備にフレキシブルに対応できるユニバーサルな建屋を新設。既存棟も改修を行い安全性と生産性、快適性を向上させる。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>「事務所用途」部分はゲストエントランス、従業員エントランス/休憩所であるが、ゲストエントランスは工場とは環境的に分離され、事務所エリアの室内環境を構築。工場内の臭い等が気にならないよう給排気を計画する。従業員エントランスはスペースが限られるため、全体が風除室になるよう計画し工場の温熱環境を確保した。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>常に工場を稼働させながら、ニーズに合わせてフレキシブルに対応していくことが求められる施設である為、生産設備の新設・更新や移設・撤去が容易にできるよう、内外装や各設備の計画がされている。また、将来を見据えた構造・設備計画により、重設備等を導入する際も大掛かりな改修が不要のように計画されている。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地外周部及び隣接する池に面した自然林をなるべく残す計画とし、西側のアプローチ道路脇も法面を緑地とすることで、来訪者や周囲に配慮している。高速道路や遠方の市街地から視認性の良い北側の外壁にはなるべくダクトや設備を露出させない計画としている。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>大空間の生産エリアや入出荷エリアは非空調とし、常時人の居るエリアのみを空調する計画とすることでエネルギーの効率化に配慮している。また、電力使用量等の見える化を行い、適正なエネルギーの使用を目指している。増築部は一部太陽光発電パネルを将来設置できるよう計画されている。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>既存棟の躯体はそのまま利用できるように増築を行い、無駄の少ない計画とした。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>汚水は通常の浄化槽だけでなく3次処理を行い法令以上の水質として放流し、工場内の有害排水は放流せず回収するなどの対策をとっている。また、騒音や排気についても法令に従い適正な状態を保っている。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>